

【会長就任のご挨拶】

佐野 雅昭
(鹿児島大学水産学部)

三期目の会長（新会則において代表理事から呼称が変更されました）を仰せつかりました佐野です。一言ご挨拶を申し上げます。これまで二期 4 年間代表理事を務めさせていただきました。2020 年度、2021 年度におきましては新型コロナウイルス感染症の全国的流行により我々個々人の研究活動はもとより研究集会開催も制限され、学会活動も不自由な時期となりました。研究活動においてリモート化が進み便利にはなりましたが、やはり研究の深化には対面での議論が不可欠であると痛感させられた時期でもあります。しかし 2022 年度には鹿児島大学で、2023 年度には 70 回大会を東京海洋大学で対面にて行うことができ、会場に足を運んでくださる参加者も増えてきました。徐々にかつてのあるべき姿に戻りつつあります。

私が当学会に入会したのは今から 35 年ほど前であり、見習いのような立場で学会運営のお手伝いをさせていただいておりました。当時は「漁業経済」という学問分野の礎を築かれた偉大な先生方の多くがまだ現役であり、学会に参加することは日本の漁業経済研究の歴史を見ているような不思議な経験でした。学会の度に、そうした先生方に厳しく叱られたり、温かく激励していただいたりすることが本当に有り難かったことを覚えています。しかし、あっという間に時は流れ、私も還暦を過ぎてしまいました。

この間、漁業をとりまく技術や生活様式、経済環境などは大きく変化し、漁業経済研究の範疇も大きく拡張しているように感じています。しかし、漁業という自然と調和した食料生産産業の本質はこれまでと何ら変わりません。当学会も同様に、諸先輩方の遺志を受け継ぎ、適正かつ峻厳な研究倫理を尊重し、自由闊達な議論やオープンで寛容な学術の雰囲気を守り、これまで通り具体的かつ誠実に産業界に貢献できる学会であり続けたいと考えています。

さて、9 月 1 日にはいよいよ北日本漁業経済学会との統合が実現します。北日本漁業経済学会は東北や北海道の具体的な漁業経済問題を主として政策面から取り上げることで、実社会との関係性を大切にしてきた学会です。漁協系統や行政からの参加も多く、社会に開かれた学会活動を永年継続してきました。普遍的課題における学術の探求を活動の中心としてきた当学会とはやや性格を異にする学会ですが、そこで議論されてきた内容は学術的に高い水準にあり、同時に産業界にとっても非常に有用なものです。従って、この統合が当学会と会員の研究活動に新しい地平とさらなる活気をもたらすものと確信しております。私のこれまでの代表理事としての活動の中で最も重要なものは、この統合を準備し進めることでした。そして、これからの会長としての最大の課題はこの統合を完成させ、学会の活性化につなげていくことだと考えております。

加えて、代表理事一期目においては故秋谷先生から、二期目においては故加瀬先生から多額の遺産をご寄付いただきました。故加瀬先生は私にとってかつては先生と生徒の関係であり、私が研究者になってからは同じ目的に向かって学び合う先輩・後輩の間柄であり、僭越ではありますが近年では最も親しい研究仲間の一人でもありました。当学会でも代表理事を務められ、苦しい時期の舵取りを担っていただいたことは記憶に新しいところです。あまりにも早すぎる突然のご逝去に、悲しむというよりもただただ驚き

が大きく、今でも信じられません。生徒、後輩そして研究仲間の一人として、また当学会を代表してここに深い哀悼の意を捧げます。

故人お二人からいただきましたご寄付の使途については既にご案内の通り文書化されたルールを設けており、将来にわたり濫用されない仕組みになっております。故人らの遺志に沿う形で、学会発展のために、次世代を担う若手研究者の育成に、また会員全員の利益となるよう使わせていただきます。実際に、ご寄付を原資として会費の引き下げや学生会員の無償化などの改革を昨期より進めた結果、学生や産業界、行政機関からの入会者が増加しています。また過去の「漁業経済研究」掲載論文の電子化を今年度中に一気に進めることを計画しており、それらを会員が学会 HP から閲覧できるようにしていく予定です。

今後も統合と改革を円滑に適切に進め、当学会をさらに力強くしていくことが、皆様から与えられた私の使命であると考えております。会員の皆様のご協力を重ね重ねお願いいたします。以上を持ちまして、会長就任の挨拶とさせていただきます。引き続き二年間、よろしくお願いいたします。